

マーケット・アイ (概観)

政府月例経済報告等

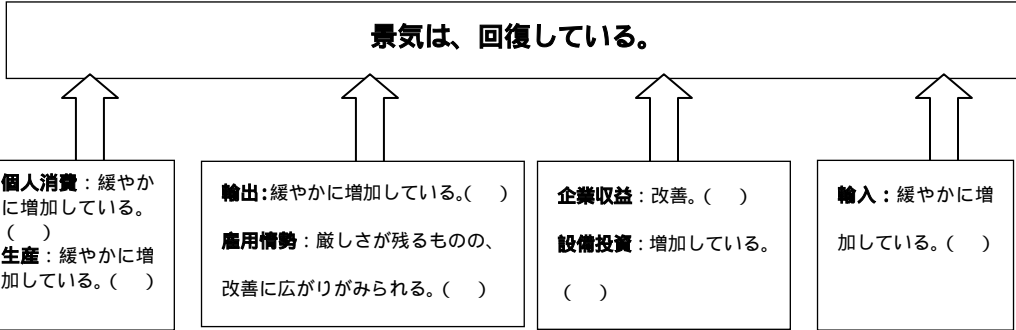
8月：基調判断

(6か月連続で判断据え置き)

<先行き>

企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれる。一方、原油価格の動向が内外経済に与える影響等には留意する必要がある。

(カッコ内は方向性を表示)



| 月 | 我が国経済の基調判断 | 判断の方向性 |
|-------|-----------------|---|
| 8月 | 景気は、緩やかに回復している。 | 8月() 9月() 10月() 11月() 12月() 1月() |
| 06/2月 | 景気は、回復している。 | 2月() 3月() 4月() 5月() 6月() 7月() 8月() |

景気動向指数 先行 4月 54.5 5月 77.3P 6月 54.5P 3か月連続で50%を上回る。
6月分改訂値 DI 一致 4月 80.0 5月 80.0P 6月 90.0P 3か月連続で50%を上回る。

物価指数 (前年同月比%)

| 全国消費者物価指数 (除く生鮮食品) 基準改定値 | 05/8 | 0.1 |
|--------------------------|------|------|
| | 9 | 0.1 |
| | 10 | ±0.0 |
| | 11 | +0.1 |
| | 12 | +0.1 |
| 国内企業物価指数 | 06/1 | +0.5 |
| 11月+2.0% | 2 | +0.5 |
| 12月+2.3% | 3 | +0.5 |
| 1月+2.7% | 4 | +0.5 |
| 2月+3.0% | 5 | +0.6 |
| 3月+2.7% | 6 | +0.6 |
| 4月+2.5% | 7 | +0.2 |
| 5月+3.3% | | |
| 6月+3.4% | | |
| 7月+3.4%P (速報) | | |

日銀金融経済月報

カレンダー

金利予想

8月：基本的見解 (2か月連続で基調判断を据え置き)

わが国の景気は、緩やかに拡大している。

輸出は増加を続けている。()
生産は増加を続けている。()
設備投資は引き続き増加している。()
雇用者所得は、雇用と賃金の改善を反映して、緩やかな増加を続けている。()
個人消費は増加基調にある。() 住宅投資は緩やかに増加している。()
公共投資は減少傾向にある。()

国内企業物価は、国際商品市況高などを背景に、上昇を続けている。()
消費者物価 (除く生鮮食品) は、プラス基調で推移している。()
先行きについては、景気は緩やかな拡大が続けるとみられる。()
(カッコ内は方向性を表示)

| 日程 | 内容 |
|------|--|
| 8/31 | 7月の鉱工業生産 |
| 9/7 | 日銀金融政策決定会合1日目 8月のマネーサプライ 日銀金融政策決定会合2日目 日銀金融経済月報 日銀総裁定例会見 |
| 9/8 | |
| 9/11 | 7月の機械受注 4-6月期のGDP2次速報 |
| 9/12 | 8月の企業物価指数速報 |
| 9/15 | 7月景気動向指数改訂状況 |
| 9/20 | 自民党総裁選投票日 |
| 9/29 | 8月の全国CPI 8月の鉱工業生産 |

| 種類 | 今後1~2か月を展望 | 備考 |
|--------------|---|--|
| 無担コール (加重平均) | (0/N) 期間中の平均 0.24~0.26% | 日銀のきめ細かな金融調節が浸透し、無担保コール0/N物の加重平均レートは誘導目標である0.25%程度で安定して推移している。 |
| 短期国債 (TB/FB) | (3M) 0.34~0.37% (6M) 0.36~0.40% (1Y) 0.45~0.60% | CPIの発表を受け早期の利上げ観測が後退したため、各タームともレートは低下している。 |
| 短期社債 (9月末越月) | a-1+ 0.37~0.38% a-1 0.38~0.43% a-2 0.45~0.50% | 金融機関の購入意欲が底堅く、発行レートは全般的に低下。銘柄間格差も縮小している。 |

2006年4月展望レポート (4月28日)

2006年4月「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)

| 指標 | 2005年度実績 | 2006年度実績 | 政策委員の大勢見通し (太字は中央値) | | |
|----------------|----------|-----------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| | | | 2006年度 | 05年10月時点の見通し | 2007年度 |
| 実質GDP | +3.2% | +0.8% 4-6月 | +2.1~+3.0% +2.4% | +1.6~+2.2% +1.8% | +1.8~+2.4% +2.0% |
| 国内企業物価 | +2.1% | +3.2% 4-7月平均 | +1.4~+1.8% +1.5% | +0.5~+0.8% +0.6% | +0.8~+1.1% +1.0% |
| 消費者物価 (除く生鮮食品) | +0.1% | +0.5% 4-7月平均 | +0.6~+0.6% +0.6% | +0.4~+0.6% +0.5% | +0.7~+0.9% +0.8% |

・各政策委員は、政策金利について市場金利に織り込まれたとみられる市場参加者の予想を参考にしつつ、上記の見通しを作成している。

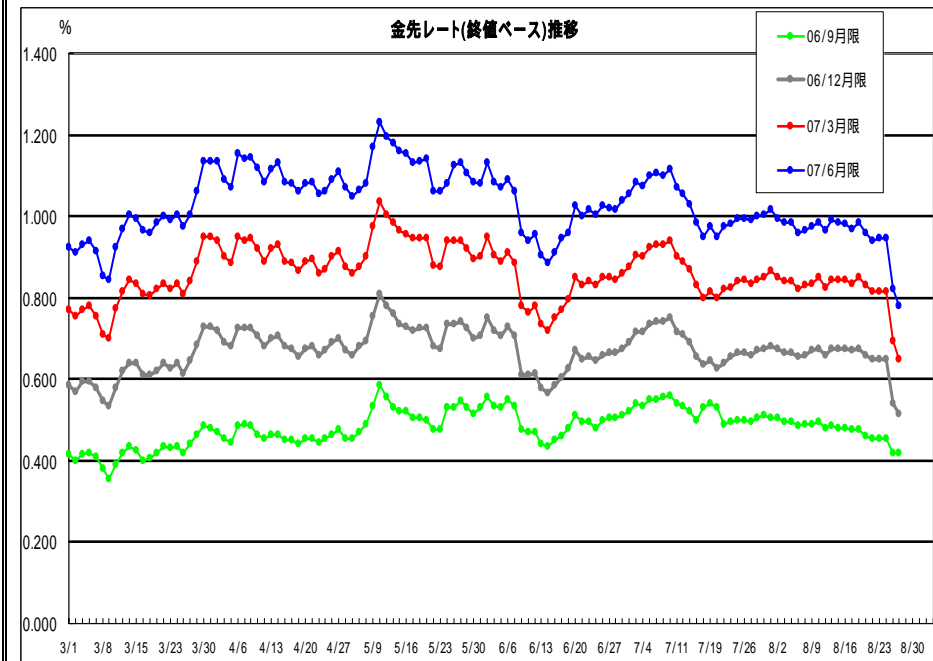
中間評価 (2006年7月)

わが国の景気は、4月の「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)で示した「経済・物価情勢の見通し」に概ね沿って推移すると予想される。物価面では、国内企業物価は、原油価格をはじめとする国際商品市況高を背景に、2006年度は、「見通し」に比べて上振れるものと見込まれる。2007年度の上昇率は、「見通し」に概ね沿ったものとなると予想される。この間、消費者物価は、「見通し」に概ね沿って推移すると予想される。

「金融市場調節方針の変更について」(日銀発表文)より抜粋 (2006年7月)

わが国景気は、本年4月末に公表した「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)で示した見通しに概ね沿って、内需と外需、企業部門と家計部門のバランスが取れた形で緩やかに拡大しており、先行きも、息の長い拡大を続けるものと見込まれる。消費者物価の前年比上昇率はプラス基調を続けていくと予想される。先行きの金融政策運営については、今後とも経済・物価情勢を丹念に点検しながら運営していく。経済・物価情勢が展望レポートに沿って展開していくと見込まれるのであれば、政策金利水準の調整については、経済・物価情勢の変化に応じて徐々に行うことになる。この場合、極めて低い金利水準による緩和的な金融環境が当面維持される可能性が高いと判断している。

CPI発表を受け、早期の追加利上げ観測は後退



25日発表の7月の全国CPI(除く生鮮食品)は基準改定後で前年同月比+0.2%と事前の市場予想を大きく下回った。これを受け、年内の追加利上げ観測が後退、ユーロ円金先も大きく買われ、金利ベースでは急低下した。28日現在のユーロ円3か月金先の金利(終値ベース)をみると、06年12月が0.515%、07年3月が0.650%、07年6月が0.780%となっている。足元のTIBOR3か月物金利が0.43%程度であることから考えると、市場は07年3月から6月にかけての追加利上げを見込んでいくことになる。